

2016年 立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアーレポート

ツアー参加者氏名： 森永 武人

卒業年：1993年 卒業学部：文学部

【参加コース】 B 福島県コース

「現地を訪問して思うこと」

今回、東北応援ツアーに参加した一番の理由は、現在私が住んでいる神戸においても過去に阪神淡路大震災という大きな災害を経験していることと、教員という立場でその状況をできる限り正確に把握し、1人でも多くの人々や生徒たちに伝えてゆかなければならないと強く感じたからである。

実際にツアーに参加すると、自分の想像をはるかに超えた状況や様々な困難に今なお直面している多くの方々がおられるのを目の当たりにし、震災後自分自身が何も出来なかったのだということをあらためて実感したのが正直な気持ちであった。

今回のツアーを通じて、最も心に残っている事は、原発による被害に関して他の被災地と大きく状況が異なっているということである。

とりわけ、浪江町では震災前およそ 21400 人であった人口が、今後避難指示が解除されたとしても、5000 人程度にとどまると予想とされており、今後の復興について様々な課題が残されていると浪江町役場の方々や、校友会のひとりでもある福島大学中井学長先生より貴重なお話を伺うことができました。

今回、応援ツアーに参加することで、人生をかけて日々尽力されている多くの校友の方々にお会いしお話を伺うことが出来たこと、そしてそれと同時に、復興を進めてゆく中においてもなお、解決する事が出来ない事が多くあるのだという事を痛感させられました。

また、この経験を踏まえ、今後は具体的に行動に移すことはもちろんのこと、今でも様々な困難に直面している人々の想いに心を傾ける必要があるということを生徒はじめ、多くの人々に伝えてゆかなければならないと改めて感じました。

そして最後に、このような機会を与えてくださった校友会をはじめ、全ての人々に感謝いたします。